

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800597		
法人名	社会福祉法人 みな福祉会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野302-2		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和5年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菜園があり、野菜など収穫したものを食事時に調理して提供を行っています。ご利用者様にも可能な限り、調理を手伝って頂いたり、片付けなども一緒にしています。また、地域がらうどんを打って食べる習慣があった方が多く、年に数回うどんを打って昼食に提供をすることがあります。そのほか、生寿司などの行事食もあります。余暇活動においては、おやつづくり、編み物、裁縫、制作など個々が得意とすること、馴染みのあることなどをやっていただいています。
 新型コロナウイルス感染症対策優良施設に認定済み。面会はLINEやパーテーション越しにおいて実施。職員間での情報共有や研修などは社内グループウェア、web会議ツールなどを利用。
 ケース記録をご家族様宛に、毎月送付。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●ケース記録を家族宛に毎月郵送するなど家族が安心するよう努めており、リモート機器を活用した面会などもなされています。本評価にともなう家族アンケートからも安心して任せている旨の意見が多数寄せられています。
 ●傾聴の姿勢をもって支援に取り組み、うわべの言葉だけでなく、表情・声のトーンの調整などにて意向を伝えられるよう取り組んでいます。現場主義を貫き、管理職会議においても細かな支援方法の検討がなされています。
 ●コロナ禍にあっても花見・散歩など気分転換が図れるよう努めています。ホームの畑では大根やほうれん草などを栽培・収穫するなど利用者の楽しみとしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく 自分らしく とともに支え合い とともに生きる」 可能な限り、その人らしく過ごせるようアセスメントから援助方法の決定を行っている。	玄関への掲示、パンフレットへの記載を通して理念・方針の周知に努めている。管理者の交替は、より職員との密なる連携を生み出し、ホームを一つの方向に導いている。	ケアの考え方、認知症に対する知識、非言語による接遇について研鑽し、職員都合とならない支援の継続に対して更に取り組む意向をもっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということで、外部の方の出入りなど出来なくなっているが、その中で運営推進会議の実施。近隣を散歩している際に挨拶をするなどしている。感染錠をみながら、デイサービス利用者と面会の機会を設ける。	オレンジカフェの開催など地域との交流をしてきたが、新型コロナウイルスの影響により中断・縮小している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで、認知症カフェを実施してきたがコロナ過で休止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況をみながら実施。 業務や行事内容の報告。コロナ過なので、ほとんど書面での報告を行っている。	感染状況を考慮しながら対面開催・書面開催の双方にて運営推進会議を実施しており、報告と関係の継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、新型コロナウイルスの件などで相談をしている。	物品の提供、各種報告を通して関係構築に取り組んでいる。地域包括支援センター・協力病院・法人他施設など関係機関との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を中心に身体拘束廃止委員会を開催。身体拘束に関する、オンライン研修会を行っている。	身体拘束廃止委員会、各種研修、管理職会議等によりケアの検討がなされている。記録や接遇など職員の更なる支援力の向上を目指している。	現状、玄関の施錠についてはしていないが、利用者の安全とのバランスの考慮など今後の検討課題としている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンラインでの内部研修会の実施。 また、外部の研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受講している。制度を利用している利用者が1名入所中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に感染症対策をとりながらの見学。介護方針やケアの決定などの説明。契約時には契約内容の詳細、個別のケースによって細やかな説明に努めている。また疑問点は電話でも受け付けられる旨説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過だが、ビデオ面会時やパーテーション越しの面会時に意見を聞くように努めている。また、電話での状況報告時にも意見を聞くようにしている。	リモート機器の活用と時間制限による対面により面会を実施している。ケース記録の毎月の郵送により家族が安心するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループウェアを利用し、意見提案を発信できる環境を提供している。管理職会議を月に2回行っており、意見提案を検討する機会を設けている。	ビジネスチャットツールを活用し、コロナ禍においても職員間の意見交換・情報共有を行っている。現場主義を貫き、管理職会議においても細かな支援方法の検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和2年度に外部業者に入って頂き、人事考課制度の見直しを行った。自己評価から上長評価、面談など一貫した評価システムを構築し運営している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内。施設内のオンライン研修で使用する動画は、介護技術を高められるよう法人環境に則した内容で構成されている。また、資格取得しやすいよう受験費用など法人で斡旋している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会議の会議、研修会に参加してきていたが現在はコロナ過ということで、開催していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴、自宅や入院先などでの住環境を考慮しながら入所後もその人らしさが継続できるよう最大限に努めている。入所時にアセスメントシートの記入を家族様に依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にこれまで、これまでの生活の中でのエピソードなどを聞く。配慮してほしい点などに耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在おかれている生活環境をもとに、どのようなケアが必要か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備(主に盛り付けなど)、後片付け(皿洗い、洗ったもの拭く)を手伝ってもらう。ほうきでの掃き掃除、寝具の交換など共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア方法の決定など家族の意見を取り入れながら検討している。また、必要物品が発生した場合には家族様に相談し、持参いただいたり購入の相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の理髪店に散髪に来ていただいている。感染症対策をとったうえでの面会を行っている。	併設の通所介護事業所との交流はコロナ禍により縮小しているものの再開が待たれている。特に職員とのコミュニケーションを密にすることが意識されており、信頼関係の構築に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを考慮し、食事の席を決定している。共通の話題などで会話ができるよう、職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所となった場合にも、情報提供など行っている。家族様へも何かあれば、相談くださいと退所後も連絡をとりやすいように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に記入いただいたアセスメント表や聞き取り、本人との日々の関りの中で聞いた思いや希望などを共有している。	利用者の発言を否定せず、受け止めながら理解するよう努めている。計画作成担当者のアセスメント・モニタリングにより意向を把握し、支援に反映するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前からこれまでの生活歴の情報集に努めている。入所後も、家族や本人からこれまでの生活での思い出に残るエピソードを聞かせてもらっている。ケアマネからも情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介助内容だけに限らず、どのような余暇を過ごしたかなど、都度ケース記録を残している。また、その記録を職員はいつでも観ることができ、業務開始前には確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループウェアを活用したカンファレンス、職員への直接的な聞き取り、家族への電話連絡による意向の確認などをもとに介護計画書の作成を行っている。	職員の意見を集約し、利用者が穏やかな生活を送れるようケアプランの策定がなされている。家族の意向も総合的支援方針に置いており、本評価にともなう家族アンケートからも安心して任せている意見が多数寄せられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、バイタル、食事摂取量、排泄状況など記録している。遡って、記録を確認できるので介護計画書の見直しの際などに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望などへ柔軟に対応している。買い物の支援。入院中の洗濯物、必要物品の購入など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、外出は控えている。余暇活動時に作成した作品をSNSにアップしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問にて診察して頂く方と、長く診てもらっているかかりつけ医を希望する方や専門医への受診が必要な方もいらっしゃるの、家族様と医療機関と相談をしながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を有する職員が居り、容態変化時には報告し医療機関への通院、相談につなげている。併設しているデイサービス看護師へ指示を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会に行くことも難しいので、SWへ電話連絡し経過を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における指針(看取り)について説明。また、緊急時における事前確認も併せて行っている。重度化した場合には、状況をみながら特養への入所をすすめる。看取りについては、本人、家族、医師と相談をしながらすすめている。	重度化と終末期の支援に対して指針を作成し、入所時に説明している。家族・医師・関係機関等々と連携しながら求める生活・状況を踏まえたケアとなるよう導いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、AEDの使用のマニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練(総合訓練)を行っている。町会と防災に協力をいただいている。	定期にて避難訓練を実施しており、運営推進会議等にて報告がなされている。水害・火災時を中心に想定しており、消火等各種訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排せつなどプライバシーに配慮した対応を心掛けている。、家族以外の方から問い合わせがあった際など、守秘義務に理解をして頂いている。	傾聴の姿勢をもって支援に取り組み、うわべの言葉だけでなく、表情・声のトーンの調整などにて伝えられるよう取り組んでいる。介護相談員や傾聴ボランティアの利用なども検討事項としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動など、希望で参加して頂くなど強要するようなことはない。自己決定が難しい方など、選択しやすいように二者択一方式的な聞き方にするなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごして頂いている。散歩への付き添いなど可能な限り、希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔の声掛け、困難な方には蒸しタオルを使用するなど配慮している。起床時、入浴後に整髪を行っている。ひげ剃りの管理など、利用者によって支援。定期的に理容店に出張にて散髪をしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	チルパック食の提供を行っている。盛り付け、味噌汁の具材を刻む、食事後の皿洗い、皿拭きを利用者にも協力してもらっている。また、手打ちうどんなど手作りをして楽しめる機会を設けている。	調理環境の変化はあるものの、利用者・家族への聴取を通して満足度を測っている。食事への関わりが減ることのないよう日常の役割・行事等にて補足にあたっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの整った献立となっている。食事摂取量を記録し、特に摂取量が少ない場合などは経過観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいなどそれぞれの口腔の状況に応じて口腔ケアを行っている。夕食後に義歯洗浄も職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンや、排泄サインからトイレ誘導が行えるよう努めている。排泄記録から、下剤のコントロールやケアを行っている。異性介助など抵抗がある方に可能な限り同性介助が行えるよう配慮している。	ケース記録の確認と把握により利用者一人ひとりへの対応に努めている。パットなどサニタリー用品についても各種会議で検討し、適切な使用に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら、便秘の状況が長期間とならないよう下剤のコントロールを行っている。水分摂取量が確保できるよう、声掛けや好んで摂りやすいものの提供を行っている。散歩、体操など体を動かす機会をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日が決まっているが、その日に入りたくないということであれば翌日に入浴をして頂くなどの配慮をしている。	声掛けや誘導の工夫により清潔が保持されるよう入浴支援に取り組んでいる。両ユニットに家庭的浴槽が用意されており、利用者の意思を尊重しながら対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後に間もなく就寝となる方、しばらく起きていらっしゃる方それぞれなのでこれまでの生活状況に合わせたかたちで過ごして頂いている。居室内温度や照明の明暗など要望に応じて調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は概ね、どのような作用があるのか理解している。また、用法、用量も把握している。誤薬など起こらないよう、最新の注意を払い職員管理で服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に食事準備を行う、掃き掃除、洗濯物をたたむなど家事を行って頂いている。必ず労いの声をかけ張り合いが持てるサポートしている。読んでいた新聞を継続してとる。趣味や昔好きだったことが継続できるように環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもあり、商業施設や家族などとの外出は控えている。その中で、施設周辺の散歩、菜園にある野菜収穫、人と接触しないドライブなど外出の機会を設けている。	コロナ禍にあっても花見・散歩など気分転換が図れるよう努めている。ホームの畑では大根やほうれん草などを栽培・収穫するなど利用者の楽しみとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金銭を持っている利用者も居る。コロナで外出の機会は減っているが、敷地内にある自販機で飲み物を買うなどして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有されている方は、必要な時にかけている。また、携帯電話の取り扱いの支援も行う。施設の電話を利用して連絡をする支援を行うこともある。書いた手紙を出してほしいということで、切手を貼付しポスト投函する支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング(共有スペース)に季節の草花を生けている。清潔が保てるよう、随時掃除などを実施している。新聞や雑誌などの設置、テレビ観賞などがいつでもできるように環境を整えている。	清掃・消毒によりリビング・浴室・トイレ等の清潔の維持に取り組んでいる。日中は皆でリビングにて過ごすことが多く、落ち着いて生活できるよう援助と配慮にあたっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	制作活動の強要などをすることなく、参加したい方に参加して頂いている。各々気の合う方同士で会話をして頂いたり好きなことができる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家庭で使っていた、馴染みの家具をお持ち頂くよう声をかけている。中には、入所に合わせて新調されようともいらっしゃるが、できる限り使い慣れたものを用意してもらっている。自室に仏壇を設置している方もいる。	居室担当職員により衣替えや備品整備などがなされている。縫い物・衣類整理など思い過ごすスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置している。トイレの場所を分かりやすく表記。夜間、安全にトイレ利用ができるように灯りを点けるなどの配慮をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	コロナの影響もあり、外部研修の機会や勉強会の機会が減少、認知症に対する理解など知見を深める機会が減っている。	認知症の理解、ケアの考え方など知見を深め、日々のケアに活かせることで、より利用者様が居心地よく過ごせる環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修への参加。主に実践者研修。(年間2~3名) ・グループホーム内での勉強会の実施。(年3~4回程度) 	12ヶ月
2	6	安全性を確保するため、補助鍵やドア開閉時を知らせるアラームが設置してある。	安全面に配慮しつつ、利用者様が不快感や不安を抱かない環境づくり。難しい場合には、できる限りそのようなものを排除できるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・補助鍵の必要性について、現状を把握したうえで検討。 ・ドアの開閉について知らせる機器については、ソフトな音色のものを設置するなど配置する。こちらについても、必要性の有無を都度検討する。 	6ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。